

# 寺社を巡る会

## 活動記録書

開催日：令和5年4月6日（木） 晴れ	開催テーマ： 『ゆったりと鎌倉・再発見』PART II 「扇ガ谷の足利・徳川ゆかりの地を歩く」
開催場所：鎌倉市	記入者： 佐々木 茂夫
参加人数： 会 員 29名、ビジター 1名 合 計 30名	
<p>実施内容</p> <p>コース：鎌倉駅西口時計台広場（集合）～勝の橋・庚申塔～扇谷上杉管領跡～浄光明寺～相馬師常墓～岩船地藏堂～薬王寺～亀ヶ谷坂～北鎌倉駅（解散）</p> <p>当日は、予定された参加者が全員参加。3班体制（1班10名）でスタートする。また、お天気にも恵まれ快晴であった。</p> <p>鎌倉駅西口広場を10時過ぎに出発。冒頭、鎌倉ガイド協会の話では、今日のコースは、フラットが多く、高低差は余りないということで安心していたら、全く違っていた。従来のコースと比べ、かなりハードであり、大変疲れた。</p> <p>コースのメインは、浄光明寺。ここで1時間以上の時間を要して参拝、見学を行った。木・土・日・祝祭日のみ公開とのこと。今日は木曜日。足利尊氏や弟の直義から寺領の寄進を受け、厚く保護された寺。本堂横の収蔵庫には本尊の阿弥陀三尊（国重文）と地藏菩薩像が安置されている。お寺のガイドさんの懇切丁寧なお話を聞くことが出来た。次に、裏山に登り（かなりハードな坂道）やぐらに安置されている石造地像菩薩坐像は綱引地藏と呼ばれ由比ヶ浜の漁師が引き上げたという伝説があり、正和二年（1313）の銘が刻まれている。後の斜面坂を登って、歌人藤原定家の孫で、歌道の名門冷泉家の始祖冷泉為相の墓をお詣りする。中納言は黄門と呼ばれたので、中納言である為相も黄門であった、との記述が寺の前の碑石にあった。</p> <p>薬王寺には、三代将軍徳川家光の弟・駿河大納言徳川忠長（秀忠の三男）の供養塔がある。忠長は、粗暴な性格を理由に甲府に蟄居、高崎に幽閉、28歳で自刃した。忠長の室・松孝院（織田信長の次男信雄の娘）は、悲嘆やるかたなく、夫君の慰霊塔を建立した。</p> <p>薬王寺を参拝した後、解散地点の北鎌倉駅を目指して亀ヶ谷坂（長い上り坂）を歩く。かなりの急勾配であり、皆さんは必死になって歩く。頂上に達し時は、本当にほっとした。やがて横須賀線に沿って歩き始め、13時頃解散地点に着いた時はどっと疲れが出た。私にとっては今までで、一番きつかったと言えるコースだった。</p> <p>最後に代表から、2022年度の最後の探訪も全員が無事に完走できた、との挨拶があった。</p> <p>解散後、ほぼ全員が鎌倉駅に引き返す。いつもように、サイゼリヤで反省会を行った。10数人が参加。古参の会員より、以前のようにこうした懇親会が出来、喜ばしいと言われ、ちょっぴり嬉しくなった。</p> <p>次回の鎌倉の探訪は、7月6日（木）「鎌倉公方ゆかりの地を歩く」となる。</p>	
参加者の状況・意見など：本当にきついコースであったが、天候に恵まれ、大変に良かった。	
次回の予定 ：令和5年5月4日(木)10時 京急衣笠城址バス停に集合（京急横須賀中央駅よりバス） テーマ 「三浦氏ゆかりの寺を巡る」横須賀ガイド協会に依頼。	